

初級者中級者の為のらんちゅう飼育方法

※「らんちゅう」と「普通の金魚」の違い※

らんちゅうは、フナから改良を繰り返して、上から泳ぐのを見て楽しむために、背びれをなくし、頭部の脂肪を発達させ、尾と全身を使いバランス良く泳ぐことを追及し現代の容姿へと改良が繰り返されてきました。今もその改良は継続しています。

「金魚の中でも王様」と称されて、その優美な魅力に皆さんが夢中になり、多くの愛好家が品評会等で理想を追求して競っています。金魚の中でも特別です。反面、多くの改良により一般的には虚弱になっているのも事実です。飼育が難しく、「らんちゅう飼育は病気との闘い」とも言われます。

らんちゅうは、水質にとっても敏感で、少しでも水が悪くなったりしますと、病気になり死んでしまいます。とても繊細な生き物です。ですから、飼育環境の水質浄化力と魚体の免疫力を強化してあげることが大切です。

らんちゅうを飼い始めたら、らんちゅうや飼育水の状態をよく観察し、異変（飼育水の臭い汚れ、魚の動き等）を早く察知する能力を身につけましょう。

初級者の方は、らんちゅうを病気にせず、元気な状態で飼育しましょう。

中級者の方は、らんちゅうを元気にする事と、色や形を意識しながら飼育しましょう。

重要度 高（らんちゅうを元気に飼う為に必要）

- ①善玉菌、善玉菌スーパーリキッドを使った飼育をする。
- ②エアレーションはエアストーンを使い強めにする。
- ③水質維持のため適度な水換えをする。
- ④水温：1日の温度差は極力少なくする。
- ⑤病気にしないために、他で買ったらんちゅうと混ぜない。
- ⑥水量は大目にする。

重要度 中（らんちゅうの形を良くする為に必要）

- ⑦過度な水流を起こさない。
- ⑧水深は浅めで飼う。

①善玉君、善玉君スーパーリキッドを使う意味

善玉君、善玉君スーパーリキッドは、ペットショップ等で売られている様々な水質を改善する目的のバクテリア類とは違い、明らかな水質浄化能力があり、水質を維持し、病気を予防する目的で使用します。(善玉君シリーズに使われている善玉菌は、日本らんちう協会の全国品評大会で入賞している、らんちゅう飼育のトップブリーダーが使用し、これがないとらんちゅう飼育が出来ないとまで言っているものです。)

②エアレーション

①の善玉菌の効果を高め、らんちゅう自体の酸欠を防止するためエアレーションは欠かせません。エアストーンを使い通常より強めの量で行いましょう。

(エアストーン：直径 50mm 丸型など)

③水換え

水換えは飼育環境により頻度が変わります。コケや魚・水の状態等を見て、3分の1～2分の1の水量を適度に行ってください。水温の高い夏場は頻度を上げる必要があります。水換えは水質維持とミネラル分の補給の意味でも重要です。

④温度差

昼夜の温度差は、魚にとって負担になりますので3～5℃の範囲にしましょう。

⑤混泳

らんちゅうなどの生き物にはそれぞれの飼育環境で病原菌等を持っており混ぜる事で病気を発症する事があります。らんちゅう以外の貝なども入れてはいけません。(プロでも違う舟(水槽)に手を入れるときは、必ず手を洗います。)

⑥水量

水量を多めにする事で急激な水温差や水質悪化が発生しにくくなるので管理が楽になります。

⑦過度な水流は起こさない

らんちゅうは溜り水の中で生息する魚です。過度な水流がある環境では、魚の泳ぎ（尾形等）に負担がかかります。水槽飼育では、水流が起こりやすい外部フィルターはお勧めしません。外部フィルターを使う場合は、水流を起こさない工夫が必要です。投げ込み式フィルターやエアーストーンで動く程度の水流での飼育が理想です。

⑧水深を浅めにする（メリット・デメリット有）

水深については魚の生死に直接関係することはありません。らんちゅうとしての魚の形を維持するために水深を浅めにする必要があります。ただし、横からの見た目はほとんど変わりません。上から見た姿が若干変わる事があります。（上から見て四角体形が理想）水深を浅めにすると当然水量が減るので管理が大変になります。魚を出来るだけ死なせたくなないのであれば水深は深めでかまいません。

（深めで飼った場合、水圧により上から見た姿が丸い魚になる傾向があります。）

浅めで飼う場合の水深の目安：当歳 10~15cm、成魚：約 15~20 c m

※ろ過フィルターについて、初級者の方は投げ込み式フィルターの使用をお勧め致します。

【到着後の対応】

水槽等に移す場合

水槽や飼育用具を使いまわす場合は塩素系洗剤（キッチンハイター等）で消毒洗浄し、十分に天日干ししたものを使用して下さい。

事前にカルキを抜いた水道水を水槽に入れておき、袋のまま水槽に入れ温度合わせ（15～30分程度）を行って下さい。

温度合わせを行ったあとは、袋の口を開け魚が自然に水槽に移るまで放置してください。魚が水槽に移ったら、袋の水は全て水槽に入れて問題ありません。

餌：**到着日は餌を与えずに**、次の日から午前中に1回で3日間程度、その後は通常通り。
（魚の体調を見て判断してください。）

善玉君（粉パック）、善玉君スーパーリキッドの使い方

善玉君（粉パック）は、水槽等に水量60Lに対して1パックを浮かべ2週間に1度新しいものに取り替えてください。

スーパーリキッドは、1日1ccを目安に餌にしみこませて与えてください。

（善玉君の善玉菌は、自然繁殖しますが、徐々に繁殖力が落ちるため、粉パックは新しいものに交換しないと十分な効果が得られなくなります。）

【飼育方法】

(60センチ水槽屋内での飼育例)

水量満水で飼う場合

飼育数：成魚（体長10～15センチ）の場合、3～5匹程度

ろ過：上部ろ過、投げ込み式（水作エイトなど）、外掛け式、底面ろ過など
外部ろ過は水流が起こりやすいのでお勧めしません。

エア：必ずエアストーン使い強めにする。

（90cm水槽用のエアポンプでエアストーンを複数入れるのがお勧めです。）

水温：18℃～25℃（1日の温度差は少なめに）

水換：2～3週間に1度、水量3分の1～2分の1程度

餌：1日朝夕2回

水深20cm程度で飼う場合

飼育数：成魚（体長10～15センチ）の場合、2、3匹程度

ろ過：投げ込み式（水作エイトなど）か底面ろ過がお勧めです。

上部ろ過の場合はポンプを水中ポンプ

（エーハイムコンパクトポンプなど）を使用する必要があります。

エア：必ずエアストーンを使い強めにする

（90cm水槽用のエアポンプでエアストーンを複数入れるのがお勧めです。）

水温：18℃～25℃（1日の温度差は少なめに）

水換：1～2週間に1度、水量3分の1～2分の1程度

餌：1日朝夕2回

(発砲スチロール内で飼う場合)

飼育数：成魚（体長10センチ）2～3匹程度が目安です。

ろ過：なし（投げ込み式を使っても良いがその場合は水槽や舟で飼育をお勧めします。）

エア：必ずエアストーンを使い強めにする

水温：自然水温（1日の温度差は少なめに）夏場は30℃を越えないようにする。

水換：狭い空間ですので、水量の半分程度を3日に1回ペースで変えてください。

餌：水温が30℃を超えた場合は控える。水温15℃程度で餌を少なめにする。

水温10℃以下では、冬眠に入るので餌は与えない。

60Lの舟、屋外での飼育例

飼育数：成魚（体長10～15センチ）の場合、3～5匹程度

ろ過：なしまたは投げ込み式フィルター（水作エイトなど）

エア：必ずエアストーンを使い強めにする

（90cm水槽用のエアポンプでエアストーンを複数入れるのがお勧めです。）

水温：自然水温（1日の温度差は少なめに）夏場は30℃を越えないようにする。

水換：数日～1週間に1度、水量3分の1～2分の1程度

餌：水温が30℃を超えた場合は控える。水温15℃程度で餌を少なめにする。

水温10℃以下では、冬眠に入るので餌は与えない。

らんちゅうの病気（えら病）に対する対策

当サイトで販売したらんちゅうは、免疫力が高く病気にはなり難いと自負しておりますが、それでも水質や水温などの飼育環境の悪化により病気になる事があります。

らんちゅうの死亡原因で一番多いえら病について

えら病とは

細菌などが原因でえらの機能が阻害され呼吸困難になる病気です。

症状

初期では餌を食べなくなり、充血などが見られます。発病後はえらが両方閉じたままや片方だけ開いた状況になります。

えら病の対処方法一例

えら病の対処方法は人によって様々ですが、ここでは一例を紹介致します。

①舟（水槽等）にカルキ（ハイポは使わない）抜きをした水に0.5%の塩水をつくり、善玉君、善玉君スーパーキッドを入れます。（水は全て新しい水で飼育水は一切入れないで下さい。）

②エアレーションを多めにして、えら病の魚を入れます。

③エルバージュエースを入れて下さい。

④治療中は一切餌を与えない。

⑤1週間程度様子を見て、魚の状況が改善し壁をつつきだしたら餌を与えてください。

壁をつつく様子が見られない場合は餌は絶対に与えないで下さい。

1週間程度で治らない場合は、また①～⑤の流れで新しい水を用意して行ってください。だいたいの場合は、約2週間で状況が改善します。えら病の発見が遅れた場合、この方法で治療しても途中で死ぬ事が多いです。えら病の治療で一番重要なのは早期発見です。

えら病は、一度感染して治ると同じ舟では、発症する事はほぼありませんが、他から買った魚を混ぜるなどで、他から病原菌を持ち込むと一度えら病になった魚でも再びなる事がありますので、病原菌の持ち込みに注意してください。

らんちゅう飼育は、全国品評会に入賞するようなプロでも、様々な方法で行われております。ここに書かれた方法が全てではありませんので、自分なりの飼育方法を見つけてらんちゅうの世界を楽しんで下さい。